

News Letter

自治医科大学附属病院 卒後臨床研修センター

令和2年3月

春の便りが聞かれる今日この頃、皆様おかわりなくお過ごしでしょうか。さっそく Newsletter 第25回配信です！ どうぞお楽しみください。

〈 診療科紹介 総合診療内科 〉

春の訪れを感じる気候になりました。みなさんいかがお過ごしでしょうか？

さて、今回は当院の総合診療内科を紹介させていただきます。総合診療内科では将来を担う総合内科医、総合診療医の育成を目指しています。経験豊富な指導医のもとで急性期・慢性期を問わずコモンな疾患への対応力、緊急病態への初期対応能力、診断がついていない患者への診断推論能力、および今後の社会において重要性がさらに増す多疾患併存（Multimorbidity；複数の慢性疾患を抱えている状態）の患者ケアなど、幅広い臨床経験を積むことができます。さらに、心理・社会的な問題点に対する多面的なアプローチや多職種連携を経験することにより、大病院や中小規模病院、ひいては診療所と異なる診療の場においても力を発揮できることを目指しています。

初期研修のローテーションでは「まず診る」という姿勢のもと、とりわけコモンな疾患への対応と診断未確定例への診断推論を学んでいきます。密なフィードバックのある症例プレゼンテーションを日々行い、診療における重要なポイントを見極める力を身につけていきます。そして、「なぜその検査（マネジメント）を行わなかったのか」という問いではなく、「なぜその検査（マネジメント）を行ったのか」という問いを大切に、学年を越えてディスカッションしながら論理的思考力と対応力を高めていきます。

患者を臓器で切り取らず、また、時間的・空間的に切れ目なく総合的に診療し Care しようとする力は、Cure を目指す高度専門化医療の中でも存在感が薄れることはありません。みなさんと一緒に学び合い、成長しあえる日を心待ちにしています。



左：UCSF から Lawrence M. Tierney Jr. をお招きした講演会の写真です（2019年10月）。
右：UCSF から Gurpreet Dhaliwal をお招きした講演会の写真です（2020年2月）。

【医師国家試験予想問題】

総合診療内科では病歴と身体診察をとくに重要視しています。このため、得られた所見から疾患を予測するトレーニング（鑑別診断）とともに、想定される疾患であった場合に患者に診られ得る所見を思い描いて診療していくことが大切になります。今回はとくに身体所見に着目して2題出題しました。

●Romberg 試験が陰性なのはどれか。

- a 脊髄癆
- b 糖尿病神経障害
- c 急性小脳失調症
- d 腰部脊柱管狭窄症
- e 亜急性連合性脊髄変性症

正解：c

選択肢考察：

- ×a. 脊髄後索障害により陽性になる。
- ×b. 末梢神経障害進行により深部感覚障害が生じ、陽性になる。
- c. 小脳失調により開眼時からすでに立位保持が不可能となるため、Romberg 試験は陰性である。
- ×d. 後索障害により陽性となる。Romberg 試験陽性は、腰部脊柱管狭窄症の診断に対する陽性尤度比 4.2 の所見である (Arthritis Rheum 1995; 38(9): 1236-41.)。
- ×e. ビタミン B₁₂ 欠乏により脊髄側索と後索が障害され陽性になる。

●28歳の男性。両下肢の皮疹と疼痛とを主訴に来院した。3週前から39℃台の発熱と咽頭痛とが出現した。1週前から両下肢に皮疹が出現している。3日前から皮疹部位の疼痛のため歩行困難となり受診した。既往歴に特記すべきことはない。喫煙歴と飲酒歴とはない。体温38.6℃。脈拍88/分、整。血圧122/70 mmHg。呼吸数18/分。SpO₂ 98% (room air)。口蓋弓と下口唇とに有痛性のアフタ性潰瘍を数個認める。心音と呼吸音とに異常はない。腹部は平坦、軟で、肝・脾を触知しない。両下肢の写真を示す。赤沈54 mm/1時間。血液所見：Hb 13.4 g/dL、白血球7,800、血小板33万。免疫血清学所見：CRP 16.3 mg/dL、ASO 127 U/mL (基準160以下)、抗核抗体陰性。胸部エックス線写真に異常はない。

この患者の経過で出現に注意する身体所見はどれか。2つ選べ。



- a 毛様充血
- b 涙腺腫脹
- c 陰部潰瘍
- d 顎下腺腫脹
- e 側頭動脈圧痛

正解：a、c

選択肢考察：

結節性紅斑を認める患者の鑑別診断として Behçet 病を念頭において診療することが重要である。

- Oa Behçet 病によるぶどう膜炎で見られる所見である。
- Xb IgG4 関連疾患で見られる所見である。
- Oc Behçet 病で見られる所見である。
- Xd IgG4 関連疾患で見られる所見である。
- Xe 巨細胞性動脈炎で見られる所見である。